

■ 概要

平成 23 年 5 月、百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産の早期登録実現に向けて、大阪府、堺市、羽曳野市、藤井寺市の 4 者が一体となって取り組む体制として、百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録推進本部会議を設立。

今回（第 15 回）の会議では、今年度の国内推薦資産選定見送りを受け、新たに 29 年度の国内推薦資産への選定、31 年度の世界文化遺産登録を目標とする方針を決定し、引き続き 4 者が一丸となり取り組んでいくことを確認した。

■ 会議要旨

1. 開会（会長 代理出席 新井 大阪府副知事挨拶）

「百舌鳥・古市古墳群」の平成 28 年度の推薦候補資産選定に向け、地元の皆様をはじめ、経済界や府内市町村など、多くの方々にご協力をいただいたが、今回その選定が見送られたことは、本当に残念な思い。

来年こそは、という思いで、引き続き、4 者一丸となって、世界文化遺産登録の実現をめざしていきたい。

2. 議事（本部長の竹山 堺市長が議事を進行）

〔議題 1〕世界文化遺産登録実現に向けた今後の方針について

- ・資料「議題 1」に沿って事務局が説明。

〔議題 1 質疑〕

（新井 大阪府副知事）

- ・世界文化遺産登録を目指すにあたり、国の文化審議会世界文化遺産特別委員会で指摘された検討課題をどのように解決していくのか。
- ・来訪者対策の計画作成はどのように進めていくのか。

（事務局）

- ・文化審議会世界文化遺産特別委員会からは、イコモスの審査状況等をふまえ、推薦内容のさらなる検討として 2 点の指摘があった。また、文化庁からは、構成資産の見直しの可能性も含めた形での検討の必要性が示唆されている。これを受け、よりわかりやすい価値の説明のあり方を追求するとともに、個々の構成資産の顕著な普遍的価値に対する貢献について、構成資産のあり方も含め、さらなる精査を進める。
- ・推薦書作成検討委員会では、世界遺産・考古学・都市計画等の専門家に加え、今年度から長年世界遺産登録に携わった 2 名の専門家にも参加していただき、原案を検討している。
- ・さらに、10 月に開催予定の「第 6 回百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録推進国際専門家会議」に、今年度は長崎等の直近の審査に関わった海外専門家をお招きし、意見聴取を行うこととしている。
- ・来訪者対策の計画では、どのように資産の価値を来訪者に伝えていくか等について、これまで検討を重ねてきた。国の文化審議会特別委員会においても、その内容については理解いただいている。今回、それをどのように具体化していくのかが問われており、我々が示した計画

がどう機能するか示すことで、来訪者対策の課題については解決していくと認識している。

(竹山 堺市長)

- ・百舌鳥と古市は、10キロ離れている。その来訪者に対する誘導については、サイクリングロードを整備して、百舌鳥と古市を自転車で結ぶというのは既に検討しているが、それ以外にも誘導するサインを設置する等も考えられるのではないか。

(事務局)

- ・百舌鳥・古市間の誘導について懸念される方もいる。しかし、たとえ天王寺経由であっても、乗り換え時間を合わせても、さほど時間はかからない。文化審議会特別委員会でも、そういった大阪の交通の利便さを説明したところ、理解は得られた。

* 議題1について了承。

[その他 委員からの発言]

(北川 羽曳野市長)

- ・百舌鳥と古市の接点をもっと身近なものにする取組が、今後課題になってくると思う。例えば、竹ノ内街道など、昔の資源を活かしながら、ふたつの古墳群を結びつけることも検討が必要ではないかと思う。

(國下 藤井寺市長)

- ・今回、推薦をいただけなかったのは残念だったが、来年こそは推薦資産に選ばれるよう、固い気持ちをもっている。今までも小学校六年生の授業で古墳群を扱うなど地道な活動をやってきたが、これからも推薦を得るために、身になる活動をやっていきたい。

(竹山 堺市長)

- ・質疑の中で、構成資産の見直しの可能性も含めた形での検討が求められているという状況の説明があった。もちろん結論に至るまでには、慎重に慎重を重ね十分な検討を行うことが必要だが、そもそも我々が目指す目的は、この貴重な古墳群全体の保全にあることを忘れてはならないと思う。構成資産に含まれる、含まれないにかかわらず、今後とも、残された全ての古墳を保全していくという我々の基本的立場は変わらないということを、改めて確かなものにしたいと思う。
- ・平成29年度の国内推薦、31年度の世界遺産登録をめざして、4者が一丸となって取り組んでいきたい。

以上